

くん炭利用による湛水耕について

片井政一・小西薫

1. くん炭利用による湛水耕について,育成層の構造,施肥量,施肥割合,追肥濃度,ヘイロサイの施用量などについて検討した。
2. 育成層の大きさは,キウリは幅 50cm,厚さ 14 cm,トマトは幅 70cm,厚さ 10cm が適当であった。
3. 促成キウリの施肥条件は,元肥として,10a 当り窒素成分量で 40kg が適量で,IBS1 号と CDU の施肥割合は 7:3 が最適であった、追肥は Blanced Soltion の 60%液が最適であった。
4. トマトでは,IBS1 号のみの施用が最もよく,窒素成分量は 10a 当り 30kg が最適であった。
5. ヘイロサイの 10a 当り 200kg 施用は,尻腐病果の発生を著しく減じた。
6. 酸度は肥料の種類,施肥量の違いで明らかな差はみられなかった。しかし電気伝導度は多肥条件下で高くなる傾向を示した。